



ななサホ



越谷市市民活動支援センターでは7つのサポート(ななサホ)を行っています。

発行元：越谷市市民活動支援センター 〒343-0816 埼玉県越谷市弥生町16-1 越谷ツインシティBシティ5階 URL <http://koshigaya-activity-support.info/>

若者の市民活動への参加に向けて

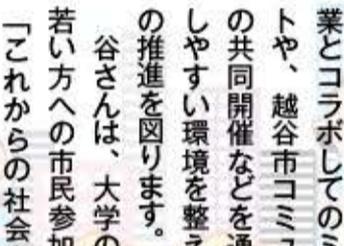
ボランティア体験や、参加してみたい活動があったら、若い方



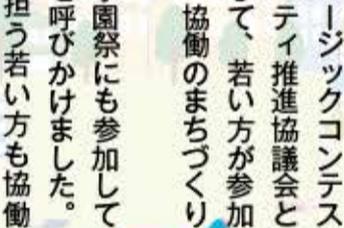
「地域のみなさんすべてを対象に活動しています。休みの日には



「子どもと触れ合える機会が多いので、保育士を目指している学生の一



「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



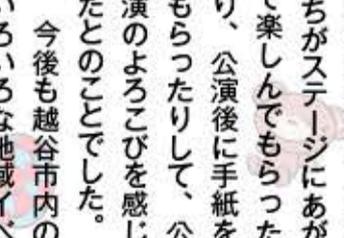
「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな



「こしがや母子愛育会」代表の高橋さんは、「まずは、私たちの活動を知って参加してほしい」と言います。同団体は、隔月ごとに乳幼児とその保護者を対象とした愛育サロンと中高年を対象とした異世代交流サロンを開催しています。愛育サロンでは子どもの健康の保持増進を目的として、子どもの歯並びのチェックや虫歯予防の他に、食育の指導など様々な活動で子どもの健康をサポートしています。7月に開催した七夕まつりでは、親子や高齢者が近隣地域の人たちと親睦を図り、心と身体の健康を考えると提供することができました。「地域の人々すべてを対象に活動しています。休みの日には

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

「市民活動への参加がしやすい環境を作れば」と話すのは協働フェスタ実行委員長の谷さん。協働フェスタは、市民活動団体と、地域・行政・企業が一体とな

今号は「若者の社会参加」をクローズアップしました。「イマドキの若者は頼りない……。」などと言ってしまうがちですが、わがまち越谷を見回すと、社会をよくするためにがんばっている若い人たちの姿がありました。

最近の若い人はどんな市民活動に取り組んでいるのか？
若い人にとって興味のある社会の課題は何なのか？
そして、市民活動とそれに関わる自分自身を、どうやって成長させていこうとしているのか？
たくさんの方に、その熱き思いを語っていただきました。笑顔で奮闘する若い人の活動にどうぞ触れてみてください。



去る9月10日(日)に越谷市市民活動支援センター「第6回センターまつり」が開催されました。昨年に引き続き、埼玉県立大学のアイドルダンスコンビ「サークル、Maybe」の皆さんにも出演いただき、まつりの盛り上げに一役かっけていただきました。

5年前に立ち上がったというサークルMaybeの名前は、レパートリーとするダンスの曲名からとったとのこと。現在のダンスメンバーは22名で他に3名、音響や照明を手伝ってくれているメンバーもあり、部員は全部で25名。メンバーは県内出身者と県外出身者が約半々で、週2〜5回、2〜3時間の練習を重ね、年5〜6回ある学内のイベントや当センターのセンターまつりのほか、「越谷梅林公園まつり」や、千間台西連合自治会主催の「千間台西夏祭り」などの地域イベントに出演。また、県立越谷特別支援学校寄宿舎のイベント「若竹祭」には毎年出演しているそうです。昨年は、長野県の特別支援学校から出演依頼があり、修学旅行先の千葉県の市民ホールでも出張公演を行ったこともあるそうです。特別支援学校の公演では、最後に観客の子どもたちがステージに上がり、一緒に踊って楽しんでもらったり、公演後に手紙をもらったりして、公演のよさを感じたとのことでした。

今後も越谷市内のいろいろな地域イベントへ参加し、越谷市のアイドルならMaybeと言われたらいいと、取材に応じてくれた3年生の成田さん、4年生の藤田さんと高橋さんは意気込みを話してくれました。

今年もサンタがやってくる!!

クリスマスイベント2017

一部 みんなで楽しいクリスマス
日時:平成29年12月17日 14時~14時50分
対象:幼児から小学生低学年までとその保護者30組(要申込み・先着順)

二部 ハッピークリスマスコンサート(バイオリン、クラリネット、ピアノ)
日時:平成29年12月17日 15時15分~16時
申込不要(80名を超えた場合は立ち見)

場所:越谷市市民活動支援センター活動室

講座に参加しませんか!!

(よそ者) × (島民) × (もの・こと)

隠岐アートトライアル実行委員に聞く「地域資源」の掘り起こし方と活かし方、そして見送り方

日時:平成30年2月3日(日) 13時30分から16時
場所:越谷市市民活動支援センター 活動室

講師:田島史朗氏(隠岐アートトライアル実行委員、多摩美術大学非常勤講師)
定員:30名(要申込み)
対象:市民活動団体の方、内容に関心のある方
申込・問い合わせ:越谷市市民活動支援センター

参加費 無料

Wonder Kids

50年の伝統を引き継いで
「声は、続ける原動力です。」

文教大学の「子ども」といって、Wonder Kidsは、来年創部50周年を迎えます。部全体を取りまとめるのは、部長の3年生・山崎愛里さんです。同部はおはなし部会、人形けき部会、子ども会部会の3部会に分かれ、山崎さんは人形けき部会のメンバー。3部会全体で70人超の部員がいますが、「一人一人の考えを大切に活動しています。みんなが積極的に行動してくれるため運営の苦勞は少ない」と言います。また、年2回の定例総会に加え、7月と12月にはそれまでの期間の総括集会を開催します。個々の積極的な関与と意見の言いやすい環境が50年を支えてきたのかもしれない。



部長の山崎愛里さん

もつひと忘れてはならない継続のポイントがあります。それは一緒に遊び、観客・聞き手となる子どもたちの笑顔と歓声です。山崎さんが属する人形けき部会は夏休みの公演で、プロ顔負け、ドライアイスとライトによる煙の演出を演出。その日のお客さんだった園児からは「もくもくだ!」と喜びの声があがったといわれています。この話を語ってくれた時の山崎さんも「劇に集中しないといけないんですけど、その声を聞いて思わず「やった!」と当時を思い出して「こりこり」Wonder Kidsは、こうした公演を主に地域の幼稚園などから依頼を受けて行っています。今は3部会ともクリスマスに向けたイベントを控えています。

中央図書室より所蔵本のご案内

出版社・晶文社
著者・兵藤 智佳

出版社・晶文社
企画編集・子ども&まちなネット
編著・監修・奥田 陸子
訳・吉岡 美夏、小島 紫

東日本震災でボランティアとして学習支援に乗り出した早稲田大学生と、校舎を失い避難生活を体験した双葉高校生が紡いだ物語です。福島第一原発にほど近い高校に通っていた彼らは、日常生活が一変し、勉強や将来への不安を抱えていました。迷いながらもそれぞれ誠実に自分の道標を見つけてようとする高校生に東京の大学生はどのような手を差し伸べる事ができるのか。大学生ボランティアを通じて自分に向き合い、表現することを得られた実感が丁寧に描かれた一冊です。



すればするほど負担が大きくなる。この悩みを解決法は簡単には見つかりませんが、部員一人丸となって、笑顔と伝統を守る活動を続けています。



Wonder Kidsのみなさん

山崎さんには野望があります。「来年50周年を迎えるWonder Kids。何か大きなイベントをして盛り上げたい。」過去から受け継いできた未来に向かう姿勢は、この先も絶えずにありたい。

なすなの会



なすなの会代表 室野さん

文教大学学習ボランティア部「なすなの会」は特別支援学校に通う子どもたちや児童養護施設に通う子どもたちと楽しく遊ぶという活動をしています。部の規模は70名ほどで、毎週土曜日に2時間ほど大学内で宿題のサポートやグループに分かれて様々な企画を行っています。ハロウィンパーティーの為に招待状工作をしたり、参加者全員で自己紹介をしたりしました。さらに社会学習の要素としてみんなでレイクタウンに行き、買い物をするといった活動もします。これは切符を買って電車に乗る

市内の大学で育つ協働の芽

若者の社会参加



ヒア・バイ・ライトは、子ども・若者の社会参加でこの社会を変えようという考えであり、それを具体的に示す手法です。ここでいう「ヒア（聴く）」とは子どもの意見に耳を傾け、純真・公正で広大な夢を見ることのできる子どもの意見を社会に取り入れ、大人と子ども・若者で社会の仕組みをよりよく変えていこうというものです。本書はイギリスで活用されるヒア・バイ・ライトの全容が紹介されており、若者の参画する社会を目指すには「若者の意見を聴かなければ」と考えている方におすすめの本です。

練習や買い物の実践を兼ねています。それぞれの企画の準備には1週間をかけ、リハーサルも行い準備に万全を期すことで「子どもたちのできることが増えていったこと」にやりがいを感じるとともに、教員方も学べました。」と代表の室野さんは話します。



なすなの会で活動をしてきて印象深かったこと

教員を志望し、文教大学に入学した室野さん。障がいをもつ子どもたちと接することで見聞を広めたいと思い「なすなの会」への入部を決意したのだそうです。「あまり話すことが得意ではないので、最初のころはどのように接してよいかから距離感がつかめず苦労しました。仲良くしようと思わずに笑顔で接するように心がけています。」と語ります。笑顔で接することで距離も縮まり表情の大切さを学んだのだそう。

「特別支援学校の学園祭に行った際に子どもたちのダンスや展示企画を見て、とても上手だったことに驚きました」となすなの会のことを嬉しそうに話すその顔にボランティアに参加した喜びがあらわれていました。

なすなの会 じゃむ食堂

各地で「子ども食堂」が話題を集めています。

「子ども食堂」は、ひとり親家庭や共働き家庭などの子どもの孤食の改善、経済的理由などで十分に食べられない子どもへの食事の提供、地域の交流促進など、様々な目的で全国で運営されており、越谷市内でも既に数か所で開設されています。



を学んでいる学生が多く在学するので、大学生が子ども食堂のよなものを作れる事が出来れば、双方にメリットがあると考えたそうです。県立大学から5名、ほかに大岩さんの呼びかけに呼応する大学生にも参加してもらい、子ども食堂運営のためのチーム「じゃむ食堂」を結成しました。活動の中心は、埼玉県立大学に近い千間台と考えています。第1回の子ども食堂は、NPO法人合の施設を間借りし開催、その後は色々な場所で開催していく中で、将来像を考えていきたいとのこと。NPO法人合の松岡代表から、法人化してみてもどうかとの話もいただき、この活動を資金面も含め支援していただいています。

チーム「じゃむ食堂」誕生

社会福祉を学んでいる、埼玉県立大学3年生の大岩駿介さんは、「子ども食堂についても学ぶ機会があり、見えない貧困が増えている現状を知り、子どもを助ける活動・支援が大事で、子ども食堂の必要性を感じた。」と言います。市内で既に子ども食堂を運営している場に参加したり、関係者とコミュニケーションを取る中で、それぞれの子ども食堂毎に考え方や運営方法はまちまちだとわかったとのこと。運営側もいきいき活動されている様子で、県立大学には子どもが好きで、福祉や医療



「子ども食堂」リハーサルの様子

ボランティア部のミニ「子供の町」

文教大学ボランティア部Cフラフープは4つのパートからなるボランティア部です。同部は40年以上の歴史があり、100名を超えるメンバーが所属しています。諸説ありますが、フラフープは円を表し、Cはその途切れた円の合間から人を受け入れる様を表しているというのが名前の由来だそう。パートには「子供の町」「つくしんぼ」「手話」「点字」の4つがあり、それぞれが独自の活動を行っています。「子供の町」パートの主な活動は、春日部市にある児童養護施設「子供の町」へ毎週土曜日に訪問し、子どもたちと様々な体験を通して過ごすことです。施設の中には公園がありその遊具で遊んだり、室内でトランプやあらかじめ企画した段ボールや牛乳パックを使った工作をしたりします。



「子供の町」での活動の様子

みんながもっと楽しく活動できる部にした

「子供の町」は子どもへの配慮が徹底されている施設なので様々な規則があり、それは例えば家族の話はしないといったものです。「子供の町」には色々な子が居ますがみんなは無邪気で活動は楽しい」と部長の飯塚さんは語ります。遊んでいると逆に飯塚さんの方が癒され、パワーを買っているのだとか。子どもたちが通っている小学校が近くにあり、運動会の際に見学に行つた時は頑張っている姿に感動したそうです。「Cフラフープは元々、ゆるさを売りにした部でしたが、もっとたくさん活動したいという意見を持った人との差が存在している。その差を埋めていくことが今後の課題。みんながもっと楽しく活動できる部になりたい」と飯塚さん。その前向きな姿勢がともまぶしく見えました。

遊びに来る子どもの年齢層は幅広く、2才から中高生まで様々です。児童養護施設で暮らす子どもたちは家庭環境の問題等で様々な課題を抱えているこ

今回のインターンシップを通して、センターまつりや講座のお手伝い、機関紙の取材など様々な貴重な体験をさせていただきました。センターまつりでは登録団体の方々や市民の皆様からインターンシップ生でなく支援センターの一員として接せられていること、仕事に責任を持つことについて考えるきっかけとなりました。昨年度は楽しんでいたセンターまつりは、こんなに多くの方によって支えられていたと知りませんでした。私と年齢の近い学生ボランティアさんが参加していたことを初めて知り、私も今回の経験を来年に活かしたいと思えました。また、支援センターでは幅広い分野の様々な講座を開催しているのですが、そのお手伝いをさせていただいただけでなく、実際に受講者として参加させていただいたこと、双方の観点から物事を見ることができました。センターまつりにおいても講座においても、主催者のみなさんの現状に満足せず、更なる向上を目指す姿勢を私が見習いたいと思えました。インターンシップ中、多くの方とお話をさせていただいて、人のあたたかさを実感するのにも、コミュニケーションスキルの重要性について考えさせられました。その他にも、順序立てて仕事をとりまわすことや臨機応変に行動すること、取材等において事前準備を行うことの大切さなど、様々なことを学びました。また、パソコンのスキルアップが必要なことや今後の課題も見つけたり、学んだことや気が付いたことを最後に活かしたいと思えました。今回、インターンシップをさせていただいた越谷市や市民活動支援センター、市民活動団体について詳しく知ることができ、本当に良かったです。誰もが利用できることのできる、このような施設があることを越谷市民として誇りに思います。跡見学園女子大学2年 種房 里紗

市民活動支援センター・新規登録団体紹介

※詳細はセンターHPをご覧ください。

登録番号	団体名	団体からのメッセージ	連絡先(敬称略)
169	東武岳風会	越谷市を中心に・春日部・草加・岩槻地域で「詩吟」(漢詩・和歌・俳句・新体詩等)を吟じ(詠う)合うグループです。又、一般吟詠(お稽古・発表会・文化祭参加等)のほか、市内「老人ホーム」月2~3箇所を訪問吟詠し入所者から好評を頂いております。	代表 永山 原 h64hajime@seagreen.ocn.ne.jp
170	越谷地区更生保護女性会	地区更生保護女性会とも、地域の中で連携し女性の立場でボランティア活動をしていきます。	代表 岡崎 和子
171	日本画公募展「花水木(はなみずき)の会」	日本画展「花水木の会」の開催を通じて、広く市民との交流を図りながら、文化意識の向上と日本画を愛する者相互の親睦を図ります。	代表 高橋 良江 sainokai-otaka@k4.dion.ne.jp
172	年金制度勉強会	年金制度に関する知識を深め、年金に関する課題解決を図り、市民に対して信頼性の高い年金情報を提供することを目的とします。	代表 神成 和美 vielspass@star.cims.jp
173	勇気のhana子育ての会	子育て中の親とその子どもに向けて、生きる力をつけるための学びや、友達づくりなどのコミュニティの場を提供します。子育てに関するイベント・講座の開催を致します。またママの趣味を生かし、活躍の場を設けるなどしてママが主役になれるお手伝いもいたします。	代表 井上 晶子 yuukinohana.k@gmail.com
174	宮本町一丁目自治会	自治会員相互の協力により、良好な地域社会の維持及び形成と、生活環境の改善を促進し、併せて会員の親睦と福祉の向上を図ることを目的とします。	代表 原 哲男
175	組織人事労務研究会	当会は、地元の社会保険労務士の有志が組織・人事・労務問題の解決支援のために組織されたチームです。組織の活性化、助成金を活用した賞金制度・評価制度の導入、人材育成、労使トラブルの予防管理等を支援いたします。	代表 下稲葉 敏彦 shimoina@nifty.com
176	越谷の学童保育について考える会	夏休み等の長期休暇は登室が朝8時になり出勤に支障を来している保護者がいます。仕事を継続的に続けられ安心して子供を預けられ、中核都市に相応しい住みやすい地域を目指して活動をしていきます。	代表 岩岡 由美子
177	ペンギン俳句会	俳句という日本の伝統文化を通して、自然を慈しみ、又地域の文化の振興をはかることを目的として活動します。	代表 鈴木 茂
178	みんなで保育	つどいの広場はくはぐの「なかま保育」での出会いを大切にしたいと、参加者たちでサークルを作りました。一人では大変なことも多い子育ても、仲間がいると楽しい子育てになるはず。子育てが楽しくなるような講座を開催する活動をしていきたいと思っております。	代表 勝呂 奈緒 NaoEM@aol.com
179	特定非営利活動法人フォーユー研究会	不登校のお子さま及び保護者様に対して広く支援を行っている団体です。毎年教育不登校フォーラムを主催しています。これからも不登校のみならず、広く青少年の支援を行っていきたくと思っております。	代表 仲野 十和田 nakajuku.onoda@gmail.com

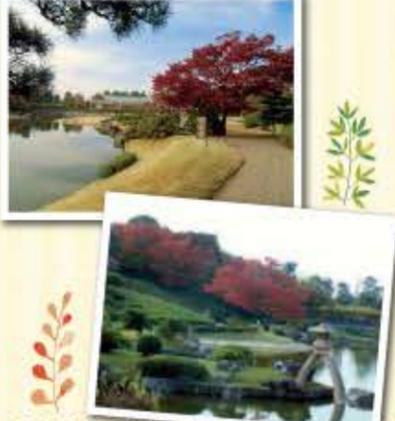
観光情報

越谷市内で紅葉を楽しむならココ!



日本全国には紅葉の名所がたくさんありますが、越谷市内でも身近に紅葉を楽しむことができる場所があることを皆さんはご存知ですか? 今回は越谷市花田6丁目にある花田苑(花田第六公園)(以下・花田苑)へお邪魔させていただきました。

花田苑は平成3年10月、畑と田んぼだった土地に開設されました。廻遊式池泉庭園なので池の周りを一周することができ、様々な角度から庭園を眺めることができます。約2千本の樹木や草花が植樹されていて、池には約2百匹の錦鯉が泳いでいます。1月が見頃の口ウバイから12月が見頃の寒椿まで、毎月、見頃の樹木や草花があるの1年を通して楽しむことができます。また、カワセミやヒヨドリなどの野鳥の姿を見ることができるところもあります。



花田苑(花田第六公園)

七五三や入学式、成人式、結婚写真の前撮りなどの撮影で花田苑を訪れたことがある方もいらっしゃると思います。近年ではカワセミの写真撮影やコスプレイヤーの方のフォトロケーションに利用されることもあり、また、ドローンの撮影にも利用されることもあつていそうです。

花田苑内には茶室があり、茶室で主菓子と抹茶をいただく「花田苑開花亭」、茶室外立礼でお菓子と抹茶をいただく「やすらぎの茶会」が月に1、2回開催されています。

また、年に1度開催される「夕ざりの茶会」もあり、こちらの茶会では茶会ならではの「のいろは」を知ることができ、伝統文化を身近に感じることが出来ます。事務局長の大塚さんは茶会でお茶をいただくながら眺める紅葉や、四阿(あずまや)周辺の紅葉、長屋門を入って左側のいちようの紅葉がおススメだと教えてくださいました。紅葉と一言で言っても、赤やオレンジ、これらのグラデーションが様々な色をしていてとても魅力的です。お隣の隣地にはこの季節に皆



この季節に皆紅葉が綺麗なこの季節に皆



越谷市市民活動支援センター利用案内とアクセスマップ



東武スカイツリーライン越谷駅下車 東口徒歩1分
駐車場:東口駐車場(有料)・駐輪場:Aシティ地下(2時間迄無料)

配布協力場所 募集しています

施設・店舗・事務所に「ななサポ」を置いていただけませんか? 年3回発行、本紙・送料は無料です。配布にご協力いただける方は、越谷市市民活動支援センターまでお問い合わせください。
TEL 048196912750

花田苑(花田第六公園)

- 開園時間
4月~9月 平日9時~17時(土日祝は19時まで)
10月~3月 9時~16時
- 施設所在地
越谷市花田6丁目6番地2
- 電話
048-962-6999
(財)越谷市施設管理公社

さんも是非、花田苑を訪れてみてはいかがでしょうか。

越谷市市民活動支援センター

所在地 〒343-0816 埼玉県越谷市弥生町16-1
越谷ツインシティBシティ4階、5階
電話 市民活動支援センター TEL.048-969-2750 FAX.048-969-2751
観光・物産情報コーナー TEL.048-969-1819 FAX.048-969-2752
中央図書室 TEL.048-969-1800
E-mail info@koshigaya-activity-support.info
HP http://koshigaya-activity-support.info/
利用時間 市民活動支援センター 午前9時~午後9時30分
観光・物産情報コーナー 午前9時~午後9時30分
中央図書室 午前9時30分~午後9時30分
休所日 市民活動支援センター 12月29日~31日、1月1日~3日
観光・物産情報コーナー 12月29日~31日、1月1日~3日
中央図書室 12月29日~31日、1月1日~4日
※蔵書点検日、休室日別途あります。

越谷市市民活動支援センター(ななサポ)は指定管理者「アイル・オーエンスタイル」が管理運営しています。

編集後記

◆今号は「若者の社会参加」がテーマということで、私の母校である文教大学に取材へ行ってきました。文教大学を訪れるのは約3年ぶりです。活気あふれる校内を見て回り学生時代を思い出しました。インタビューに協力していただいた山崎さん、飯塚さんもパワーあふれる方達で、自らの所属する団体への熱い思いを語っていただきました。その姿を見てみると、何かパワーをもたらしたような気がしました。今後の業務の励みになります。(阿部)

◆先日、「鳥の目 蟻の目 魚の目」という標語に出会いました。目的によって見る「目」を変えようという意味ですが、草の根分けて這い進むように記事を書いていく私にとって、この号全体のテーマや、取材相手が伝えたいことを、立ち返って考え直すヒントになりました。

◆今号のテーマでは、取り上げざることはできませんでしたが、地元の越谷高校の学生が久伊豆神社周辺を毎朝掃除している姿にも目を向けつつ、協働のまちづくりを地道に推進している市民活動団体を紹介できればと思います。(A・I)